

6 自分たちの町は 自分たちで守る！

ち いきぼうさい
～広げよう地域防災の輪～



いざというとき、頼れるのは？

はんしん あわじ だいしんざい
阪神・淡路大震災では、壊れた家の下敷き
になってしまった人の多くが、近所の人な
い がたけんちゅうえつおき
どらの手で助け出されました。新潟県中越沖
じしん
地震でも、昔からの人のつながりから、食
料をみんなで分けあったり、炊き出しをし
たり、助け合いの輪が広がりました。



地域での助け合いが大きな力

愛知県では、東海・東南海地震がいつしよに起こると、
およそ4万9000もの建物が火事で燃えてしまうとい
われています。愛知県にある消防車の数は、約370台。
とても間に合う数ではありません。そうすると、とな
り近所など、地域の人た
ちで力をあわせて、少し
でも早く火を消すしか方
法はありません。



子どもたちに防災教育を！

防災について学ぶことは、子
どもたちの命を守るだけでなく、
子どもたちが生きる力や人を思
いやる心を学ぶ機会にもなりま
す。学校や家庭、地域など、さまざま機会をとおして、
防災教育を広げていくことが期待されています。



地域で防災活動を！



災害が起こったとき、
地域の力をいかすには、
日ごろからの防災活動が
大切です。避難訓練だけ
でなく、手づくり防災頭
巾の講習会や家具の転倒防止のお手伝い、またお年寄
りなど助けを必要とする人がどこにいるかを調べてお
くことなど、さまざまな活動をしている地域もあります。



キーワード

～自分たちの町は自分たちで守ろう！～

災害が起こったとき、本当に頼りになるのは地域
の力です。地域にはいろいろな人が住んでいます。
学校や会社、商店街や自治会、自主防災組織など、
さまざまな組織もあります。それぞれが得意な分
野で、力をあわせていくことで、地域の力は何倍も
大きくなるのです。



広げよう！防災活動の輪。
いざというときに役に立つのは
地域の力です。

今、住んでいるところで、
私たちができることは何でしょう？
DVDでは、そのヒントになる活動が
取り上げられています。



そのなる前の防災対策